

3. 水生生物調査

(1) 調査の概要

カワゲラ、トビケラ等の河川に生息する水生生物は、水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これらを指標とした水質の簡易調査は、誰でも調査に参加できるという利点を持っている。

国土交通省では、全国の一級河川（直轄管理区間）において、小学生、中学生、高校生及び一般市民等の参加を得て、昭和59年度から継続的に水生生物による簡易な水質調査を実施している。

平成14年の調査は、全国の一級河川のうち106水系262河川、615地点において、小学生・中学生・高校生の参加が得やすいよう夏休み期間を含め、6～11月の期間に実施した。

(参加団体) 588団体(参考資料4(P.77)参照)

小・中学生 11,916人

高校・大学 623人

その他 3,607人

(参加人員) 16,146人

(2) 調査結果

表 - 16に示す水生生物を指標^{注13}として水のきれいさやきたなさの程度を調査した。その結果を表 - 17、図 - 20に示す。また、主要地点における水質の評価結果を図 - 21に示す。

注13 水生生物の指標に関して、平成11年に、建設省（現国土交通省）と環境庁（現環境省）で指標となる生物の種類や集計方法といった調査方法の見直しを行い、建設省（現国土交通省）では、平成11年から新しい調査方法に基づいて調査を行っている。

表 - 16 指標生物

・きれいな水の生物	・少しきたない水の生物
カワゲラ ナガレトビケラ ヤマトビケラ ヒラタカゲロウ ヘビトンボ ブユ アミカ ウズムシ サワガニ	コガタシマトビケラ オオシマトビケラ ヒラタドロムシ ゲンジボタル コオニヤンマ カワニナ スジエビ ヤマトシジミ イシマキガイ
・きたない水の生物	・大変きたない水の生物
ミズムシ ミズカマキリ タイコウチ ヒル タニシ イソコツブムシ ニホンドロソコエビ	セスジユスリカ チョウバエ エラミミズ サカマキガイ アメリカザリガニ

注) は汽水域の生物である。

表 - 17 水生生物による水質調査結果

判定内容	地点割合 (%)	
	平成13年	平成14年
きれいな水	55	53
少しきたない水	33	35
きたない水	9	8
大変きたない水	3	2
判定不能	0	2

きれいな水と判定された地点割合は53%と、平成13年より2ポイント減少し、少しきたない水と判定された地点割合は35%と、平成13年より2ポイント増加した。一方、きたない水及び大変きたない水と判定された地点はいずれも平成13年より1ポイント減少した。

地方別に、きれいな水と判定された地点の割合をみると、中部と近畿で増加したものの、その他の地方では減少した。全国の割合よりも高い地方は、北海道、東北、北陸、四国となっている。

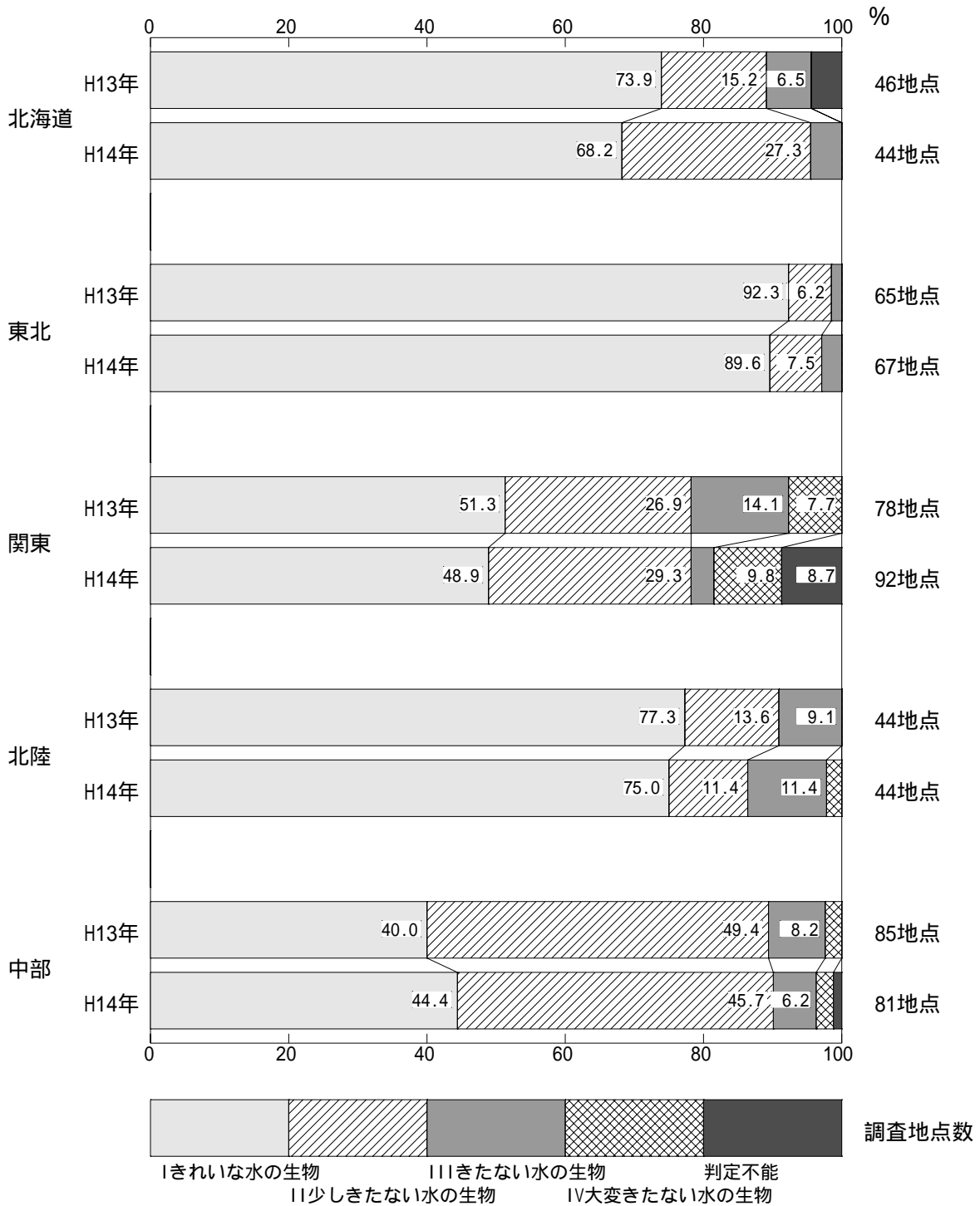


図 - 20(1) 水生生物による水質調査結果(地点割合)

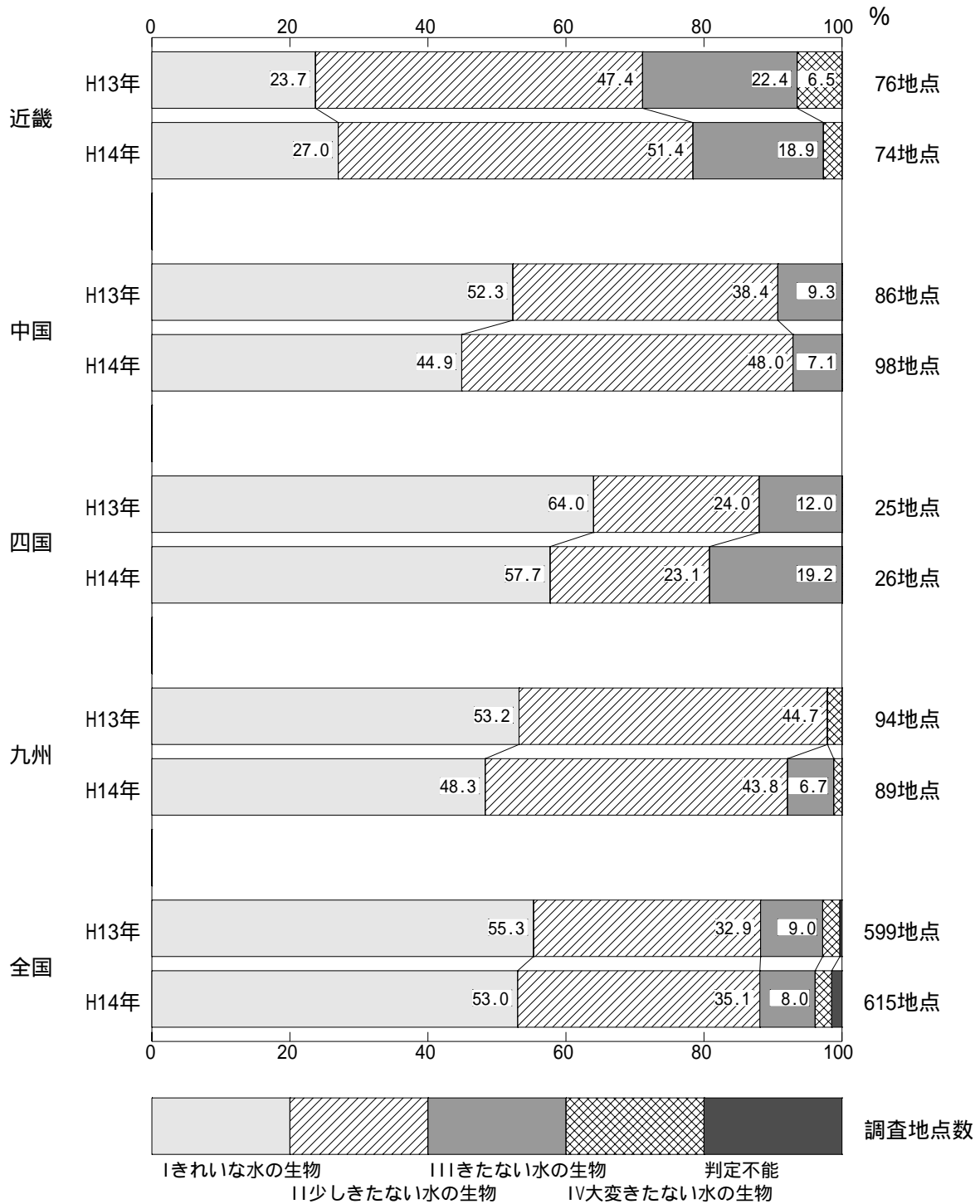


図 - 20(2) 水生生物による水質調査結果(地点割合)

図 - 21 平成 14年 一級河川の水生生物による水質評価結果

